

## 主題：キリストを経験し、享受し、表現する

メッセージ 34

### ピリピ人への手紙において（1） 信者たちの模範と信者たちが追い求める目標

聖書：ピリピ 2:1-16, 3:1-16

#### I. ピリピ第2章1節から16節は、わたしたちがキリストをわたしたちの模範として経験し享受することを啓示しています：

A. わたしたちはキリストの辱めにおける彼を経験する必要があります。すなわち、わたしたちは彼を、ご自身をむなしくし、低くした方として経験する必要があります——6-8節：

1. キリスト、神の御子には非常に高い地位がありました。彼は神の形と、神と等しくある権利とを所有していました——6節。
2. 彼は神と等しくあるのを固守すべき尊いこととは見なさず、かえってご自身をむなしくし、奴隷の形を取り、人の姿になりました。キリストは、ご自身の高い立場を放棄し、人の形だけでなく、奴隷の形をも取られました——7節。
3. 彼は人の有り様で見いだされ、ご自身を低くして、十字架の死に至るまでも従順になりました——8節。
4. そのようなパーソンとして、キリストはわたしたちの経験と享受のための模範です。

B. キリスト・イエスの中にあつた思いは、わたしたちの内側でも思いとなるべきです——5節：

1. このような思い、このような考えは、キリストがご自身をむなしくし、低くした時に、彼の中にあつた——7-8節：
  - a. キリストは、神と等しくあるのを固守すべき尊いこととは見なしませんでした——6節。
  - b. そうではなく、彼はご自身をむなしくし、奴隷の形を取り、人の姿になられ、それからご自身を低くして、死にまでも、十字架の死に至るまでも従順になりました——7-8節。

2. キリスト・イエスの中にあつた思いをわたしたちの内側に持つために、わたしたちは、キリストの心の深みにおいて彼と一である必要があります——1:8。

C. キリストは、わたしたちに対する模範であるだけではありません。彼はわたしたちの命でもあり、そしてこの命は十字架につけられた命です——コロサイ 3:4. ガラテヤ 2:20. ピリピ 1:21 前半：

1. キリストの辱めの七つの段階はすべて、十字架につけられた命の各面です。彼が十字架の死に至るまで従順であったのは、完全に絶対的な方法で生かし出された、十字架につけられた命です——2:6-8。
2. わたしたちはキリストを経験し、生きるときはいつでも、十字架につけられた命

の模範である方を生きます—— 1:21 前半。

3. もしわたしたちが十字架につけられた命としてのキリストを内側に持っていないなら、ピリピ第2章で提示されている模範にしたがって生きることは決してできませんでしょう。十字架につけられた命だけが、そのような模範を生きてことができます—— 5-8 節。

D. わたしたちの救いを成し遂げることは、キリストをわたしたちの模範とすることの結果です—— 12 節：

1. この模範がわたしたちの救いであり、この救いはわたしたちの中で活動する神ご自身であって、実行上の方法でわたしたちを救います—— 13 節。
2. わたしたちの中で活動する神は、実はイエス・キリストの霊です—— 1:19：
  - a. わたしたちはイエス・キリストの霊の満ちあふれる供給によってのみ、キリストをわたしたちの模範とすることができます。イエス・キリストの霊によって、わたしたちはイエスと同じように低くなることができます。またイエス・キリストの霊によって、わたしたちは互いに他の人を自分自身よりすぐれていると思うことができます—— 2:3-4。
  - b. 模範としてのキリストはわたしたちの中にいて、ご自身をイエス・キリストの霊としてわたしたちの内側から生かし出します——ガラテヤ 2:20. ピリピ 2:5-8. 1:19-21 前半。
  - c. わたしたちは神の活動と協力するとき、キリストをわたしたちの模範とし、彼が生きたように、自分をむなしくし、自分を低くする命を生きます—— 2:3-8。

II. ピリピ第3章1節から16節において、キリストは信者が追い求める目標として提示されています。キリストがわたしたちの目標であることが意味するのは、彼が最高の享受であるということです：

A. わたしたちの目標はキリストを得ることであるので、わたしたちは他のすべての事を捨て去り、ただキリストだけを追い求めるべきです—— 4-8 節：

1. 8 節における「すべての事」は、宗教の事柄、哲学の事柄、文化の事柄の三つの部類を確かに含んでいるに違いありません—— 4-7 節。
2. パウロはこれらすべての事を損失と勘定しました。なぜなら、それらはキリストの代替物であり、サタンによって用いられて人々をキリストから、またキリストを経験することから引き離すわなであったからです—— 7 節。

B. キリストをわたしたちの唯一の目標とするために、わたしたちはキリストを知る知識の卓越性を持つ必要があります—— 8 節. ガラテヤ 1:15-16：

1. わたしたちはパウロのように、キリストの卓越性におけるキリストの知識を持つべきです。
2. この知識は、キリストとキリストの卓越性に関する啓示、ビジョンを指しています。わたしたちはキリストの尊さのそのようなビジョンを持つ必要があります。

C. キリストを追い求めることにおいて、パウロはキリストの中に見いだされ、「キリストの中にある人」として生き、キリストを自分の唯一の表現とすることを願っていました——ピリピ 3:9. II コリント 12:2：

1. パウロは、彼の全存在がキリストの中に浸され、キリストで浸透されることを熱

望していました。それはパウロを観察するすべての人たちが、パウロを完全にキリストの中に見いだすためでした。

2. キリストの中に見いだされることを熱望することに関して、パウロは自分自身の義ではなく、キリストにある信仰を通しての義、すなわち信仰に基づく神からの義を持つことを欲していると言いました——ピリピ 3:9 :
  - a. わたしたち自身の義を持つのではなく、神からの義を持つことは、キリストの中に見いだされる条件です。
  - b. パウロは神の義の中に生き、そのような卓越した状態の中に見いだされ、キリストを生きることによって神を表現することを欲していました—— 9 節。
  - c. 信仰に基づく神からの義は、わたしたちから生かし出された神ご自身であり、キリストを信じるわたしたちの信仰を通して、わたしたちの義となります。そのような義は、わたしたちの中に生きておられる神の表現です—— II コリント 3:9, 5:17。

© 2011 Living Stream Ministry

